

学科別専門科目

授業 コード	授業科目名	ページ
-----------	-------	-----

学科別専門科目 135

油絵学科

	・ 絵画表現コース	
2890	絵画表現基礎 IA	136
2900	絵画表現基礎 IB	137
3030	絵画表現基礎 II	138
3040	絵画表現基礎 III	139
3050	絵画表現基礎 IV	140
	・ 日本画表現コース	
3100	日本画基礎 I	141
3110	日本画基礎 II	142
3250	日本画研究 I	143
3260	日本画研究 II	144
3270	日本画研究 III	145

授業 コード	授業科目名	ページ
-----------	-------	-----

芸術文化学科

	・ 芸術研究コース	
3280	芸術研究学 I	146
3290	芸術研究リサーチ	147
3300	芸術研究特殊講義 I	148

授業 コード	授業科目名	ページ
-----------	-------	-----

デザイン情報学科

	・ デザイン総合コース	
3420	デザイン総合研究 I	149
3430	デザイン総合研究 II	150

科目名	絵画表現基礎 I A						
授業コード	2890	授業科目名	絵画表現基礎 I A			担当者	三浦明範教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、昌山昌子講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (絵画表現コース必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

身の周りの生活空間に注目し選び出した植物や器物などを対象に「静物画」を制作する。作者の興味を基にした取材を通して、静物の構造や環境性の把握、明暗と色彩の関係、構成や構図と言った画面の内外への造形的視点を養うと共に、油彩絵具やアクリル絵具を用いた制作を实践し、各描画材が持っている特性や色彩の扱いを体得しながら独自の絵画表現を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題 「静物を描く」

1-1 植物や器物などを組み合わせた静物を対象に様々な視点から取材をする。

1-2 1-3につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。

1-3 植物や器物などを組み合わせた静物を対象に油彩またはアクリルで制作する。15号のキャンバス1点。また、作品制作に関する記述文を200～400字以内にまとめる。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画表現基礎 IA・II 2020年度』の「絵画表現基礎 IA」を参照。

教科書『絵画の材料』を参照。

教科書『絵画－アートとは何か－』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画－アートとは何か－』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『絵画表現基礎 IA・II 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	絵画表現基礎 I B						
授業コード	2900	授業科目名	絵画表現基礎 I B			担当者	三浦明範教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (絵画表現コース必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日頃目にしている物が、モチーフとして目の前に置かれることで日常的な用途の意味から切離され、光の反射によって造形物としての純粋な形、色、質感、性質が浮び上がります。
この授業ではモチーフを通してそれらを捉えることから始まり、対象物と向き合いながら、そこにおける自らの関心や視点を探ります。

【課題の概要】

○面接授業課題「静物を描く」

1-1 組まれたモチーフをデッサンまたはドローイングする。描画材自由

1-2 組まれたモチーフを油彩またはアクリルで制作する。15号キャンバス

【授業計画】

○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第2日 午前：制作 午後：制作

第3日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

第4日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第5日 午前：制作 午後：制作

第6日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

科目名	絵画表現基礎 II						
授業コード	3030	授業科目名	絵画表現基礎 II			担当者	三浦明範教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、昌山昌子講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (絵画表現コース選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

この課題では「人を描く」ことがテーマとなる。対象として「人」を観察すると色、光、形など、目の前の「人」からは色々な要素が見えてくる。

「人」はとてもオーソドックスな対象であるが、決して色褪せることのない多様な要素を持つ絵画の代表的な題材の一つである。

各人が自分の視点を通して制作に取り組み、それぞれの表現につながる発見を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題 「人を描く」

1-1 自画像、または身近な人を様々な視点から取材する。

1-2 1-3の制作につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。

1-3 自分又は身近な人を対象とし、油彩またはアクリルで制作する。15号～20号のキャンパス1点。作品制作に関する記述文を200字～400字にまとめる。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画表現基礎 IA・II 2020年度』の「絵画表現基礎 II」を参照。

教科書『絵画の材料』を参照。

教科書『絵画－アートとは何か－』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎II～IV）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画－アートとは何か－』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『絵画表現基礎 IA・II 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	絵画表現基礎 III						
授業コード	3040	授業科目名	絵画表現基礎 III			担当者	三浦明範教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (絵画表現コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

美術史の中において人物を中心テーマとして描かれている作品は数多くある。何故、人を描くのか？それは一番身近なモチーフであり人間が人間に興味と関心を持つ存在だからである。長い美術史において様々な画家が独自のスタイル（個性、世界観、感性）をどの様に築き表現してきたかを注視し、自分らしい表現とは何かを考え、それぞれの個性を重視する。そして前後半通し（6日間）十分な時間を使い、自由に絵を描く楽しさと難しさを体験する。

【課題の概要】

- 面接授業課題「人物を描く」
- 1-1 人物(ヌード)1名を配置し、制作する。20号キャンバス1点以上。
- 1-2 人物(着衣)1名を配置し、制作する。20号キャンバス1点以上。

【授業計画】

- 面接授業
 - 第1日 オリエンテーション・前提講義→クロッキー・エスキース→油彩制作（アクリル可）
午前：裸婦 午後：着衣
 - 第2日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
 - 第3日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
 - 第4日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
 - 第5日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
 - 第6日 制作 午前：裸婦 午後：着衣→講評
- ※ 上記の日程は、開講時期により異なる場合があるために、スクーリング持参物冊子を参照すること。

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価とする

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
1年次～
- 履修条件
油絵学科に所属していること。
- 備考
絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎II～IV）より1科目以上単位修得が必要。
「絵画表現基礎IB」を同時に履修する場合は「絵画表現基礎IB」を先に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

科目名	絵画表現基礎 IV						
授業コード	3050	授業科目名	絵画表現基礎 IV			担当者	三浦明範教授、吉川民仁教授、遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (絵画表現コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

版表現では、平、凸、凹、孔の形式がある。それぞれ性質を異にするものであるが、版という共通の概念で結ばれている。

授業ではこの4つの形式のうちの2つを選択し、版表現と関わりの深い本を題材にして、版を使ってオリジナルの手帳カバーと蔵書票を制作する。

その中で表現の可能性を探り、それぞれの版種の基本技法を体験する。

※蔵書票とは、本の見返し部分に貼って、本の持ち主を示すための小紙片。通常、絵とともに「Exlibris」という言葉と持ち主の名前が画面に入れられることが多い。美術品として収集の対象にもなっている。

【課題の概要】

○面接授業課題

前半「リトグラフ」後半「木版」のクラス、または前半「スクリーンプリント」後半「銅版」のクラスのどちらかを選択する（面接授業申込時に選択）。

1-1 ムサビ手帳のカバーを制作する。「リトグラフ」「スクリーンプリント」イメージサイズ21.5×16cm程度

1-2 自身の気に入っている本の蔵書票を制作する。「木版」「銅版」イメージサイズ10cm×10cm程度

【授業計画】

○面接授業

・前半 ムサビ手帳のカバー 「リトグラフ」または「スクリーンプリント」

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第2日 午前：制作 午後：制作

第3日 午前：制作 午後：制作及び相互鑑賞会

・後半 本の蔵書票 「木版」または「銅版」

第4日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第5日 午前：制作 午後：制作

第6日 午前：制作 午後：制作及び相互鑑賞会

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎II～IV）より1科目以上単位修得が必要。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（各クラス定員25名）。

受講の際は下図を必ず持参すること。

【教材等】

なし

科目名	日本画基礎 I						
授業コード	3100	授業科目名	日本画基礎 I			担当者	重政啓治教授、尾長良範教授、西田俊英教授、山本岩直彰教授、岩田壮平准教授、喜多祥泰講師、神彌佐子講師、星晃講師、室井佳世講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (日本画表現コース必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画を描く上で用具を揃える、扱うといった初歩的なことから作品の制作をする準備から完成までの工程体験を中心に学ぶ。また日本画特有の骨描きやたらし込み、掘り塗り等の表現法や制作に必要な用法習得を目標とする。

【課題の概要】

○面接授業課題「日本画を描く」

日本画の用具用材の紹介をもとに与えられたモチーフを使い、F15号以上の画面への紙本彩色を通して用具の扱い方および制作工程の基礎となる準備から完成までの工程を体験する。

【授業計画】

○面接授業

第1日 午前：用具解説／午後：制作のためのデッサン
 第2日 午前：デッサン／午後：大下図制作
 第3日 午前：骨描き／午後：下地作り
 第4～5日 午前：制作／午後：制作
 第6日 午前：制作／午後：制作、講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

日本画表現コース必修科目。

日本画表現コースの学生は初年次に受講すること。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

科目名	日本画基礎 II						
授業コード	3110	授業科目名	日本画基礎 II			担当者	重政啓治教授、喜多祥泰講師、神彌佐子講師、星晃講師、室井佳世講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (日本画表現コース必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画を描く上で必要な写生と言われるデッサンの導入として、モチーフの観察や捉え方、その描写する方法などの本画制作に必要な記録法について学ぶことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題1「日本画のデッサン」

モチーフを良く見て観察し、画用紙に日本画を描くために必要な資料としての鉛筆デッサンをする。

- ・部分的、クロッキー的、記録的な要素を踏まえたデッサンをする。
- ・細密描写をする。
- ・明暗、立体感をともなった細密描写をする。

○通信授業課題2「筆を使う」

筆の特性や使い方を知ることが目的に日本画筆を用いてデッサンをする。

- ・筆を用いて墨で描く。
- ・筆を用いて彩色する。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『日本画基礎II・日本画研究I 2020年度』の「日本画基礎II」を参照。

教科書『日本画・表現と技法』の「花を描く」を参照。

教科書『現代日本画の発想』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

日本画表現コース必修科目。

初学者は「日本画基礎I」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書

『日本画基礎II・日本画研究I 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	日本画研究 I						
授業コード	3250	授業科目名	日本画研究 I			担当者	重政啓治教授、喜多祥泰講師、神彌佐子講師、星見世講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (日本画表現コース選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために風景をモチーフに通信授業で制作する。風景については自然と向き合いながらその美しさを体感し、自然の骨格を知り、独自の視点で捉えることも含め日本画の扱い方や表現方法を生かす追求する。

【課題の概要】

- 通信授業課題1 制作工程1
 - ・遠近感のある身近な風景のデッサンをする。
 - ・興味深い場所や、特徴のある視点で選んだ対象をデッサンする。
 - ・風景をモチーフに、色を用いてデッサンする。
- 通信授業課題1 制作工程2
 - ・描いたデッサンをもとに小下図、大下図制作、本画制作をする。

【授業計画】

- 通信授業
学習指導書『日本画基礎II・日本画研究I 2020年度』の「日本画研究I」を参照。
教科書『日本画・表現と技法』の「風景を描く」を参照。
教科書『現代日本画の発想』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
1年次～
- 履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。
- 備考
日本画表現コース選択必修科目：選択必修3科目（日本画研究I～III）より1科目以上単位修得が必要。
初学者は「日本画基礎I」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

- 教科書
『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）
- 学習指導書
『日本画基礎II・日本画研究I 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	日本画研究 II							
授業コード	3260	授業科目名	日本画研究 II				担当者	重政啓治教授、尾長良範教授、西田俊英教授、山本岩直彰教授、岩田壮平准教授、喜多祥泰講師、神彌佐子講師、星晃講師、室井佳世講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定		
科目区分	学科別専門科目							
授業形態	面接授業（日本画表現コース選択必修科目）							

【授業の概要と目標】

日本画の制作工程、日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために風景をモチーフに面接授業で制作する。風景については自然と向き合いながらその美しさを体感し、自然の骨格を知り、独自の視点で捉えることも含め日本画の扱い方や表現方法を生かす追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題 「日本画の制作工程」

風景をモチーフに写生、小下図、大下図の工程研究を踏まえ日本画絵具を使って、F15号の紙本着彩をする。

【授業計画】

○面接授業

第1日 午前：前提講義および制作解説／午後：制作のための風景デッサン

第2日 午前：デッサン／午後：デッサン

第3日 午前：下図、下地作り／午後：制作

第4～5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作、講評

※ 学外見学あり。第1日、第2日に実施予定（天候等によっては変更する場合あり）

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。

日本画表現コース選択必修科目：選択必修3科目（日本画研究I～III）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

なし

科目名	日本画研究 III						
授業コード	3270	授業科目名	日本画研究 III			担当者	重政啓治教授、喜多祥泰講師、神彌佐子講師、星晃講師、室井佳世講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目						
授業形態	面接授業 (日本画表現コース選択必修科目)						

【授業の概要と目標】

日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために墨を使って制作する。付立てや風景等を題材に描いたものをもとに墨で大作を通して、独自の視点で捉えることと水がもたらす表現の幅がどのような可能性が示すかを追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題 「墨を使っての制作工程」

墨を使って様々なデッサン、それを使って本画へのプロセスとしての小下図、大下図の追求を通して、墨で大作を描く。

【授業計画】

○面接授業

第1日 午前：前提講義および手本学習 午後：手本からの学習
 第2日 午前：制作プロセス、デッサン 午後：デッサン
 第3日 午前：デッサン 午後：デッサン、中間講評
 第4～5日 午前：墨による制作 午後：墨による制作
 第6日 午前：墨による制作 午後：講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。

日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究I～III）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

なし

科目名	芸術研究学 I						
授業コード	3280	授業科目名	芸術研究学 I			担当者	田村裕教授、 金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (芸術研究コース必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

【概要】 芸術研究の前提となる「芸術」及び「作品」の概念とその成り立ちを理解し、造形を文化的・社会的な事象として研究するための視点を身につける。

【目標】 自身の鑑賞体験を、作品・鑑賞者・美術館の3要素を用いて説明できること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

【レポート】 美術館の空間や展覧会の構成と美術作品の鑑賞体験との関係について考察する課題。

○通信授業課題 2

【レポート】 美術館と博物館における作品・資料展示の特質について考察する課題。

【授業計画】

教科書の I 及びⅢにより学修し、課題に基づいて学修報告を提出する。

(主な内容)

・ I ミュージアムというトポス (ミュージアムでなぜしゃべってはいけないの? / 仏像を拝まなくていいの? / ミュージアム-作品の生まれるところ / 博物館と美術館-文化を語る二枚舌の構造 / ミュージアムと博覧会・展覧会-だれのため? だれが見たのか? / ミュージアムという居場所)

・Ⅲ ミュージアムに行こう (世の中とつながりたいミュージアムの考えていること / ミュージアムの展示と解説-聞く、読む、そして観る / デザイン・ミュージアムはどうやって鑑賞するの? / みんなで一緒に鑑賞するには-ミュージアムでの鑑賞と鑑賞支援 / 大学とミュージアム-学ぶ、見せる、研究する)

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1 年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備考

芸術文化学科芸術研究コース 1 年次必修科目。

【教材等】

○教科書

木下直之編『未来を拓く人文・社会科学シリーズ 16 芸術の生まれる場』(東信堂 2009 年)

○学習指導書

学習指導書『芸術研究学 I 2020 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年)

科目名	芸術研究リサーチ						
授業コード	3290	授業科目名	芸術研究リサーチ			担当者	田村裕教授、 金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (芸術研究コース必修科目)						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

造形芸術の研究やライティングに必要な文献・Web情報の探索と活用の方法、現地調査や人物取材の手法などを学ぶ。情報収集能力の向上と、集めた情報を編集・加工して論文などの自己表現に活かせるようなスキルの獲得を目標とする。

【課題の概要】

○メディア授業課題1「文献目録の作成」

芸術文化に関するテーマを設定し、それに関する文献資料を様々な情報源を活用して収集し、書誌データを整理して文献目録を作成する。また、テーマ設定から目録完成に至るまでの行動プロセスと所感をレポートにまとめる。

○メディア授業課題2「年表（または年譜）の作成」

芸術文化に関するテーマを一つ設定し、それに関する主要事項を盛り込んだ年表（または年譜）を作成する。また、テーマ設定から表の完成に至るまでの行動プロセスと所感をレポートにまとめる。

【授業計画】

○講義動画の構成

1章 芸術研究リサーチとは何か

2章 図書館を知る

3章 図書館での資料探索

4章 インターネットによる資料探索-1

5章 インターネットによる資料探索-2

6章 現地調査とインタビュー取材の方法

7章 情報活用のための整理と編集加工

・講義動画の終了時に「学習チェック」を受け、全問正解したあとにメディア授業課題に取り組む。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。

具体的な必須要件は以下のとおり。

・ Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。

・ Microsoft Word Ver.14 (Word 2010) 文書またはMicrosoft Excel Ver.14 (Excel 2010) ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。

・ 作成データをPDFファイル形式に変換できること。

・ PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考

芸術文化学科芸術研究コース 1年次必修科目。同コース 2年次編入生は 2年次に、3年次編入生は 3年次に履修すること。

推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

科目名	芸術研究特殊講義 I						
授業コード	3300	授業科目名	芸術研究特殊講義 I			担当者	田村裕教授、 金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (芸術研究コース必修科目)						
授業形態	メディア授業						

【授業の概要と目標】

【概要】造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。

【目標】造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

○メディア授業課題

課題 パブリックアート：地元地域等の駅前、公園、街路、公共施設等に設置されている、絵画・彫刻等の作品の作者・作品名・作品形態・制作年・状態・経緯等を調査し、報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。

【授業計画】

- ・テーマに関する講義動画の視聴と学習チェック。
 - 1.パブリックアートとは何か。
 - 2.パブリックアートの現在
 - 3.パブリックアートの調査と報告
 - 4.パブリックアートを考える
- ・調査成果のWEBキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。

具体的な必須要件は以下のとおり。

- ・ Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。
- ・ Microsoft Word Ver.12 (Word 2007) 文書またはMicrosoft Excel Ver.12 (Excel 2007) ブックを閲覧・編集・保存できること。
- ・ 写真の撮影と画像のWeb提出ができること。

○備考

推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

科目名	デザイン総合研究 I						
授業コード	3420	授業科目名	デザイン総合研究 I			担当者	上原幸子教授、河野奈保子講師、風間純一郎講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『自分を可視化する』

デザインを学ぶ者にとって、アイデアを生み出していく過程で、自分が持っている引き出しの確認作業が必要になることが少なくない。

自分の発想がどこからくるのか、自分は何に興味関心があるのか、今後何をしたいのか、その理由と展望について、自分の視点を確認できる情報ソースとして、周辺情報の整理と可視化を試みる。

【課題の概要】

課題名『マイデータグラフィックス』

自分を客観視することを目的に、自分年表を用いて自分のこれまでをビジュアライズした情報ツールを制作する。

それらは、自分を取り巻く社会環境を、時間軸と関係軸で表すデータグラフィックスである。

【授業計画】

①自分情報を表にまとめる

たくさんの情報を整理するには、テキスト化する作業は欠かせない。まずひたすら書き出して検証していくことから見えてくるもの、導き出したい方向性を確認していくステップとして資料を作成する。

②手描きによる自分年表の作成

自分を取り巻くさまざまな社会環境を俯瞰しながら、時間軸を用いて記憶の中にある自分情報を可視化する作業を行う。記憶として切り取られた情報ソースを、手描きによってビジュアル化し、自分の中にある引き出しを確認できるツールを作成する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

渡邊俊博著『考えを整理する・伝える技術 グラフィックレコード』（フォレスト出版 2019年）

○学習指導書

『デザイン総合研究 I 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

○参考文献

石黒謙吾著『分類脳で地アタマが良くなる 頭の中にタンスの引き出しを作りましょう』（KADOKAWA／角川マガジンズ 2015年）

科目名	デザイン総合研究 II					
授業コード	3430	授業科目名	デザイン総合研究 II		担当者	清水恒平准教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	1~4	指定
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース必修科目)					
授業形態	メディア授業					

【授業の概要と目標】

「図化考察—思考の図化トレーニング」

デザインにおいては、あらゆる情報や関係性を分析・調査して、分かりやすい形にまとめる（編集する）力が求められる。この科目では、複雑な事象を図にすることによって整理する方法を学ぶ。すべての課題は紙と鉛筆を使用して行う。手を動かしながら頭を整理するための、思考の基本パターンのトレーニングを行います。

【課題の概要】

バブルマップ／ダブルバブルマップ／フローマップ／マルチフローマップなどの基本パターンを使用した20の小課題を行う。

【授業計画】

課題制作のための説明動画の視聴→課題制作→解説動画の視聴を基本のセットとして、合計20の課題を行う。

提出は最後にまとめてPDFファイルにして Web 提出する。

課題を行う際に使用するフォーマットのダウンロードやプリントアウト、提出の際のスキャニングやPDF化については講義動画の中で説明する。

【成績評価の方法】

メディア授業の中で制作した作品（PDFにて提出）の総合評価

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1 年次～

○履修条件

「デザイン総合研究 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

デザイン総合コースに在籍していること。

インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。具体的な必須要件は以下の通り。

- ・PDFファイルが閲覧できること。
- ・スキャンができること。
- ・スキャンデータをまとめたPDFファイルへの変換ができること。
- ・Web提出ができること。

○備考

デザイン情報学科デザイン総合コース必修科目。

推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし